

外国籍県民かながわ会議（第13期・第5回）議事録

開催日：2025（令和7）年9月28日（日曜日）
場所：かながわ県民センター15階 1502会議室、1503会議室

1 開会（事務局）

会議のルール、会議の録音、欠席者及び配布資料、委員の辞任と新たな委員の選任等について説明した。

2 議題

（1）全体会議（前回の欠席者より提言構想メモの修正事項の説明）

次第に沿って、本日の流れを柳委員長から説明した。

- 生活向上部会：柳委員長が部会長
- 情報部会：オオシロ副委員長が部会長

資料に沿って、前回の欠席者より提言構想メモの修正事項の説明をした。

ア 李委員の提言構想メモについて

- 13期以前の委員が提言しているが、続けて声を上げることが大切と考えたため、今期でも提言をしたい。

（柳委員長）

- 何年も言い続けてやっと実現することもあると思うので、当事者の声として言い続けることが大切である。

イ 王委員の提言構想メモについて

- 「外国人向けの情報提供の伝達について（p10）」、「オンラインとリアルでの発信」の2つに分けた。
- オンラインの発信を外国人住民向けと外国人観光客向けに区別した。リアルの発信は、具体例について追記した。既に県の公式SNSがあるが、外国人の暮らしに関する情報発信に特化した手段は限られていると感じたため、住民向けに発信する媒体があるとよい。
- 在留カード・特別永住者証明書を更新する際の手続案内について

（p13）

次回の更新時期や、外国人向けの情報提供アカウントで注意喚起

を行ったことについて追記した。

- ・ 外国から日本の運転免許へ切り替える試験の混雑緩和について (p14)
通訳ボランティアの活用についての記載を削除した。
- ・ 外国人受入れの情報提供について (p15)
アルテアガ委員の提言メモと重複しているため、参考となる予定。
(柳委員長)
- ・ アルテアガ委員の辞任を受け、王委員の提言とアルテアガ委員の提言
内容を含めて情報部会で考えることが出来たらよい。

ウ ストービー委員の提言構想メモについて (p18)

- ・ 基本的に修正はないが、災害時のAI翻訳の活用やソーシャルメディアの設立、県と市町村での連携強化に向けた体制の確立をしてほしい。
(柳委員長)
- ・ 神奈川県にあるラジオ放送を調べた。災害時に多言語で放送局と
自治体が連携して放送を流すこともあるようだ。こうした機会の活用
や、既存の取組自体を外国人が知っているかも含めて考えるとよい。

エ ハリソン委員の提言構想メモについて (p22-24)

- ・ 地方参政権情報のリンクを神奈川県ホームページに紐づけることが
難しければ、この提案は行わなくてよい。もしくは、法務省のホームページ
にアクセスするように促す周知が出来たらよい。
- ・ ホームページのGoogle翻訳について、事務や予算の関係によって難
しいとの話があつたが、今すぐでなくても、数年間かけてデザインの
変更だけでも出来れば良い。
(柳委員長)
- ・ 地方参政権情報リンクについて、ハリソン委員としては地方参政権
は外国人にも関係するため、リンクがあると良いということ。
(ハリソン委員)
- ・ 外国人の中で混乱になっているのであれば、情報の周知が足りない
と思う。国のページと結びつけると良いのではないか。リンクを貼り付
けることが難しい場合は、「日本国民になりたいならこのページに行
くように」と促せればよいのではないか。

(柳委員長)

- 情報の載せ方は難しいと思う。「詳しく知りたい方はこちらをクリックしてください」という形でウェブサイトに移らせるのと、「日本国籍を取得すれば地方参政権を得ることが出来る」という情報を載せるのとでは、見え方が変わってくる。日本国籍取得の選択は人によって異なると思うが、県民会議として後押ししているように映ってしまうのは違うと思う。そのため、載せ方等の対応について部会で検討したい。

(2) 部会別協議（情報部会）

(オオシロ副委員長)

- 第一に、今ある提言の中で同様の内容や方向性が似た内容の仕訳、現実的に可能か、神奈川県が取り組める内容かについて話し合いたい。
- 初めに、提言の必要性、提言の仕訳方法について話し合う。

○ 情報発信方法について

(オオシロ副委員長)

- 防災は生活オリエンテーション寄りの内容、教育関連と分けられる。その二つでは情報を届けたい世代が変わってくるため、情報のアプローチの仕方が異なる。方向性が似た同士の提言を一緒に出来るとよい。
- 「教育」、「防災」、「生活」、「情報発信」の3つで括るのはどうか。

○ 蒋委員の提言について

(蒋委員)

- 既に出入国管理庁で、17言語のオリエンテーション動画を公開しており、神奈川県のホームページにも反映され、提言自体は成立している。しかし、全県的に生活オリエンテーションを実施することは難しく、海老名市等では定期的に行われているが言語に限りがある。
- 開催についてホームページに載っていないため、前期の提言に追加の内容として提言出来るのではないかと考えた。
- 県が各自治体に実施を促すように働きかける提言をしたい。
- 防災医療等の基本の生活オリエンテーションを実施している市町村もある。自治体によって異なる、足りない情報を足すような意味合いで、

生活オリエンテーションを実施したい。

- ・ ホームページでの発信やオンラインでの開催も提言出来たらよい。
- ・ 前回、韓委員が、留学生や特定技能で来た人に向けた生活オリエンテーションを学校や企業が実施していると話していた。しかし、技人国で来た方へ生活の情報は届きにくい。

(オオシロ副委員長)

- ・ ホームページを変えることの難易度はどれぐらいか。
(事務局)
- ・ 国際課のページは容易だが、別の所管の場合、改編が難しい場合もある。現在、第12期の提言をもとに、ホームページの改編をお願いしている。
(蔣委員)
- ・ 提言が成立した場合、外国籍県民かながわ会議のページの中に、生活オリエンテーションに関する情報を出すことは可能か。
(事務局)

- ・ 可能である。

- ・ 生活オリエンテーションの冊子については、県でも情報を載せている。
- ・ 外国人が増えている市町村は情報を掲載しているが、マンパワーが足りず実施出来ていない県西部にどのように働きかけていくかも考える必要がある。
- ・ 出入国管理庁のオリエンテーション動画は、市町村が集まる会議で周知している。
(蔣委員)
- ・ 日本語講座がある市町村等で生活オリエンテーションを組み込めるとよい。

- ・ 第11期の提言をもとに、県で実施している日本語講座では、生活オリエンテーションを実施している。

- ・ 市町村も生活オリエンテーションの機会が増えているため、課題点や不足の点について考えることが出来ると良い。

(オオシロ副委員長)

- ・ 情報に辿り着くまでが課題のホームページと、対象が限定されることが課題の生活オリエンテーションとでは、別の難しさがあるか。

じむきょく (事務局)

- 来日時期はそれぞれ異なるため、どのタイミングに講座を実施するのかなど、どのように実施すると効率的であるかを考
える必要がある。
- 市町村以外にもかながわ国際交流財団などでは、地域のコミュニティの特定の人を対象に日本の生活ルールを伝えている。

ふくいんちゅう (オオシロ副委員長)

- 企業で生活オリエンテーションを行っている場合もあると思うが、全部をカバーすることは難しい。国の習慣など無意識のことも多い。企業のオリエンテーションで情報を伝えられることには限りがあるため、どのように提言にするかについても考
える必要がある。

じむきょく (事務局)

- 企業の課題認識によって生活オリエンテーションの有無も変わると、その方法も話し合えると良いかもしない。

○ アルテアガ委員等SNSでの発信に関する提言について

ふくいんちゅう (オオシロ副委員長)

- SNSでの発信に難しさを感じる。広告のようにお金をえば、情報が流通しやすいかもしれないが、SNSの更新のみで情報が伝わるのは難し
い。SNSは興味があるコンテンツのみが表示される機能であることから、普段から防災や学校に興味がないと、表示されない懸念がある。

じむきょく (事務局)

- SNSを作ることは可能であるが、登録者を増やす方法も考
える必要がある。また、国によって利用しているSNSが異なることから、アプローチ方法についても考
えることが大切。

いいん (ハリソン委員)

- 県のホームページを見やすくすることは、予算の関係で難しいか。

じむきょく (事務局)

- 効果があれば予算が付くと思われるが、どのように作成すれば効果があるかというのを示すことが必要である。予算面以外にも、どのようにしたらその情報媒体にたどり着けるかについても考
える必要がある。加えて、発信するコンテンツも考慮する必要性がある。

- 例えば、生活オリエンテーションであれば、出入国在留管理庁の動画

とうきぞんとりくみけんおなさくせいとう等既存の取組があるため、県として同じようなものを作成するのか等についても検討する必要が出てくる。

(ストービー委員)

- 在留カードの情報周知については、市町村にお願いすることになるのか。

(事務局)

- 市町村にお願いすることになる。

(オオシロ副委員長)

- 最近は、流行りの音楽などで情報発信を行っている企業等がある。外国人の方にオリエンテーションしていると広報すると、若い人にとってはかえって面倒に感じてしまうこともあると思う。動画を視聴する人にとっては、教えていない風の動画を作成出来れば、自然と情報を吸収することが出来るのではないかと思った。

(ハリソン委員)

- 例えば、神奈川県がクリエイターを雇うなどしたらよいと思ったが、クリエイターが動画を作成して炎上したものは神奈川県の責任となるため、動画の安全性の確認を県で行うとよいかももしれない。

(事務局)

- その条件で受けるクリエイターがどれだけいるかも考慮するべきである。

(オオシロ副委員長)

- 人気のあるクリエイターとなると、その分予算もかかる。

(蒋 委員)

- 国際課に丸投げするのではなく、県民会議のメンバーの中で自分たちなりに出来ることを進めたい。

(ハリソン委員)

- YouTube では設定言語に合わせて自動音声を付けることが出来る。

(オオシロ副委員長)

- 自動音声はAIが行っていると思うが、課題点としては、AIが間違えた時に責任を誰が取るのかが行政は難しい。

(蒋 委員)

- そうなると、動画のチェックが必要となる。

(ストービー委員)
いいん

- チャットボットなどの手段もあるのではないか。

(ハリソン委員)
いいん

- 翻訳とチャットボットは別の話である。

○ オオシロ副委員長教育に関する提言について
ふくいいんちょうきょういく かん ていげん

(オオシロ副委員長)
ふくいいんちょう

- 子供の高等学校における教育と周知について提言した。高校に進学することに対し、外国人に情報が行き届いていないように感じる。日本語が分からぬ親がいる世代に情報が届くようにしたい。

(松村委員)
まつむらいいん

- 先週、国際交流ラウンジに聞いたら、日本語版の高校受験に関する冊子がなかった。

(事務局)
じむきょく

- 現在の日本語版の高校受験に関する冊子は、支援者がいる前提で作成されているものがある。松村委員の話にあるように、親だけで情報が分かることがあると受験へ前向きになることに繋がるかもしれない。

(松村委員)
まつむらいいん

- 昔は説明する動画もあったが、最近探した時は見つからなかった。

(オオシロ副委員長)
ふくいいんちょう

- 支援者がいない環境の人にとって役立つ情報があるとよい。

(事務局)
じむきょく

- 高校受験の申込みの際、外国にルーツのある生徒に先生が教えながら行うという話を聞いたこともあるので、こうした子どもたちにとっては、申込みのハードルは高い。

(松村委員)
まつむらいいん

- 多言語で高校受験に関する冊子があると良い。

○ 爰委員の教育に関する提言について
ゆ いいん きょういく かん ていげん

(蒋委員)
じょういいん

- 特別募集枠の増加については良いと思うが、志願可能な年数の短縮と学習支援を増やすことについては、難しいと感じる。

(事務局)

- 自立して高校受験を受けることが出来る情報提供または発信について考える必要があるかもしれない。

(オオシロ副委員長)

- 親はもちろんだが、子どもにも届いてほしいという気持ちがある。

(松村委員)

- 進学の方法は沢山あるが、担任の先生が教えてくれないこともある。

(オオシロ副委員長)

- 進学に成績が関係する時に、担任の先生が外国ルーツの親に説明することが出来るかという課題もある。通訳の人がいない地域や日中の時間帯の場合、親が通訳出来る知り合いに頼むことは難しい。地域に分かりやすい高校受験に関するガイドブックがあるとよい。

(松村委員)

- Me-net が作成したものは各学校においてある。

(オオシロ副委員長)

- 学校で見たことがない。

(事務局)

- 先生の意識にもよるかもしれない、先生の意識を変えることが大切になるかもしれない。

(松村委員)

- 在県枠のための進学ガイダンスを Me-net のホームページでも紹介しているが、ガイダンスに参加する学校による。

(オオシロ副委員長)

- 検索しても教育についての情報は日本語でしか出てこないものが多いように感じる。スペイン語で直接的に翻訳した文言で検索をかけても個人のブログの情報等しか出てこないことがあり、情報が少ない。

(松村委員)

- 県の教育委員会のホームページは全て日本語である。

- コロナにより、学校見学は予約制になった。予約自体も日本語で行う必要があるため、難しく感じる。

(オオシロ副委員長)

- 外国人は学校を休むことが悪いと思っていない人もいる。出席日数が

た しんがく じゅけん さい こま ぶんか ちが し ひと
足りないと進学・受験の際に困ることを文化の違いで知らない人もいる。

- かくげんご さくせい むずか えいごばん
・ 各言語の作成が難しくとも英語版があるとよい。
- (蒋委員)
せいかつ なか きょういく かん ないよう よ
・ 生活オリエンテーションの中に教育に関する内容もあっても良いかも
しれない。
- (オオシロ副委員長)
げんじつてき わ こま ひと じょうほう き
・ 現実的かどうかは分からぬが、困った人がチャットに情報を聞ける
機会があると良いかもしない。
- (事務局)
じむきょく
・ 翻訳の信頼度についても考える必要がある。

○ 提言の方向性について

ふくいいんちょう
(オオシロ副委員長)

- ふくいいんちょう ていげん まつむらいいん ていげん よてい
・ オオシロ副委員長の提言と松村委員の提言をまとめる予定である。
- いいん ていげん じょうほう の かた くふう ひつよう
・ ハリソン委員の提言については、情報の載せ方を工夫する必要がある。
- こんご きょういく じょうほうはっしん かんが
・ 今後は教育と情報発信の2つを考えていきたい。

(3) 部会別協議 (生活向上部会)

りゅいいんちょう
(柳委員長)

- いま しく か いま つく
・ 今までの仕組みをどう変えるか、今までなかつたものをどう作ってほしい
いかということが分かるように提言をまとめていきたい。
- いいんちょう い いいん ゆ いいん きょういく いいん がいこくじん じんざいいくせい きょうつう
・ 委員長、李委員、俞委員は教育、ドン委員は外国人の人材育成が共通
のテーマ。「人材育成」という小グループで検討することもできる。
- はんいいん さいがいじ いいん こうりゅうじぎょう くらはしいいん
・ 韓委員の災害時のネットワークづくり、バ委員の交流事業、倉橋委員
の高齢者の制度については、「ネットワーク」という小グループとしてま
とめられるのではないか。
- おういいん ざいりゅう など ていげんあん くに しょかん ていげんか
・ 王委員の在留カード等の提言案は、国が所管だが、提言化しても、国
に要望しかできない。それでも提言化するか、または神奈川県でできるこ
とを何か考えて、県への提言にするのか、話ををしていきたい。
- きょう かくいいん はな あ
・ 今日は各委員がどうすることをしたいか話し合いたい。

○ 王委員の提言について

(王委員)

- 国への要望と、県として何ができるかの検討ができればよい。例えば、
入管で交付の際に、次回の申請時期の案内の紙などをもらえるとよい。

(倉橋委員)

- 永住者の場合、在留カード更新の2か月前に入管から案内がくる。

(柳委員長)

- 特別永住者の場合、区役所から手続の案内がくる。

(倉橋委員)

- 退職や解雇の場合には、14日以内に入管に届出が必要。期限内に手続しないと後の更新に響く。また、特例期間はあるが、更新手続の処理を待っている間に在留期間が満了すると、銀行で出金できず、子ども手当も受給できない。

- 外国人に対する説明が不足している。AIを活用してもよいので、お知らせしてほしい。更新の状況が追跡できる機能もあるとよい。

(李委員)

- 倉橋委員の言うことを全然知らなかつた。知らないと調べようともしないので、個人に対して、更新時に起きうることや更新の時期、流れなどについて郵送でお知らせできたらよい。

(柳委員長)

- 倉橋委員の意見は、更新中に起きうることや、更新中に本人がすべきことをお知らせし、注意喚起をすべきというものだと思う。
- 王委員の提言は残す。国への要望のほか、県からの情報提供についても検討し、具体的に考えてほしい。提言の検討の過程では、更新に際して起きていることや、外国人がどのくらい困っているかも明らかにする。

○ 倉橋委員の提言について

(倉橋委員)

- かながわ国際ファンクラブの高齢者版のような、外国人高齢者が集まり、情報提供できる場がほしい。

(俞委員)

- 高齢者の定義にも色々ある。

(柳委員長)

- 65歳以上が高齢者、75歳以上が後期高齢者となっている。12期でも高齢者が話題になったが、高齢者は自分たちで遠出することが難しいので、居住地の近くに場を確保する必要がある。その場をどう確保するのか。

(倉橋委員)

- イメージしているのは情報提供としての場。対象は家族でもよく、その場で施設や年金、必要な手続等、高齢者に関する情報を得られるとよい。

(柳委員長)

- 12期もワンストップの窓口を作りたいという提言を出した。李委員が言ったように、言い続けることが大事でもあるので、同じような提言を出すのもありだと思う。または、具体的なことを12期の提言に加えるか。

(王委員)

- 13期として具体的な内容や方法を書くと、先に動かせるかもしれない。

(柳委員長)

- 高齢者ることは、12期の提言をベースに、もう少しこうしてほしいという内容を出すことにする。

- 外国人高齢者の場合、地域包括支援センターに相談するまでや、コミュニケーションが難しかったりする。

(倉橋委員)

- 言葉の問題もあり、地域のデイサービスに外国人ははじめない。外国人のための場があったほうがよい。

(王委員)

- 情報だけが問題ではない。

(倉橋委員)

- 県がどこまで手を出せるかわからないが、外国人高齢者が増えているのは事実。どういうふうに助けられるか考えたい。

○ 教育関係の提言について

(柳委員長)

- 教育関係で1つの提言にまとめるか、それぞれ出すか。

(俞委員、李委員)

- まとめたほうがよい。

(柳委員長)

- ・ 高校でひとつにまとめる。内容として内部の授業、入試制度がある。
各提言をどういう形に残すのか。

(李委員)

- ・ 柳委員長が言ったように、ルーツを持っている彼ら自身がパワーになり、いずれ日本で活躍すると思う。そのためには、彼らがそれを自覚するように扱わないといけない。家庭では母文化に触れるかもしれないが、社会にいたら日本になじんでいく。彼ら自身がルーツを忘れないようにするだけではなく、周囲も学校教育を通して、外国人を理解する必要がある。

(俞委員)

- ・ 社会科で色々の国の勉強をする。授業のコマに余裕はない。皆忙しいと思う。

(李委員)

- ・ 全ての国を理解するのはコマ数が足りない。現実的には、日本以外の国と交流するようなイメージ。

(倉橋委員)

- ・ 外国人がいるから日本がだめになっているという考え方がある。小さいときからなじませないといけない。高齢者がSNSで特定の国の人を中傷する例もある。それは小さいときの教育がなかったから。

(柳委員長)

- ・ 外国につながる子どもは、「日本で暮らしているのだから、日本に合わせるほうがいい」となりがち。周りの環境がそうさせるのかもしれない。
- ・ 外国にルーツの有無にかかわらず、学び、話し合いながらお互いを知り、ルーツがある子どもは「できる」という強みを感じる機会を、学校側が作ってほしい。
- ・ 俞委員の提言は、枠の増加と在留期間を短くしてほしいということか。

(俞委員)

- ・ 日本に5~6年いれば、日本人と同じように学習ができると私は思う。

(柳委員長)

- ・ 来日後3年で日常生活のことができるようになるが、学習に必要な日本語の習得は3年では難しいと先生に聞いた。Me-netの高橋先生から、課題

や改善するために必要なこと等詳しく話を聞いたほうがよい。
(李委員)

- 落ちたらどうなるのか。
- 申込をして、倍率がでて、志望校の変更ができるが、うまいことしないと私学も受けられなくなるなど複雑なシステムとなっている。来日したばかりの子どもへのフォローも含めて話し合っていければよい。

○ 王委員の提言（運転免許の更新に関するこ）について
(柳委員長)
次回検討する。

(4) 全体会議（部会別協議の結果共有）

ア 情報部会について

(オオシロ副委員長)

- 高校受験と生活を中心とした防災の2軸で提言をまとめる予定。ホームページやSNSの媒体の情報を届けたい対象に合わせて考えることが今後の課題である。
- 幅広い人に情報を届けたい場合、どこに焦点を当てて届けるのかについて考える必要がある。

イ 生活向上部会について

(柳委員長)

- 主に教育と人材育成に関する提言と、ネットワークに係る内容についての提言としてまとめる予定。
- 王委員が提言する在留カードの国への要望については、国が実施することなので、要望という形になってしまふかもしれないが、外国人が在留カードを更新する際に必要な手続きや注意事項等の現場の現状を要望として伝えたい。具体的に神奈川県に向けては、実態を調べてほしいということや、更新時の注意事項等の情報提供を窓口で行うなどの対応が可能かを提言で考えることが出来るとよい。

- 高齢者については、12期でも同様の提言があるが、具体的な内容として情報提供の場等を求める内容を提言出来るとよい。
- 教育について、県立高校の授業の中で外国ルーツの生徒に対し、外国にルーツがあることが強みであること、活躍できることを環境の中で感じられるように、どのような機会を作ることが出来るかについて考えたい。進路については、特別枠を増やすことが第一であり、年数や条件に関しては、現場の課題感について現場を知っている方から学ぶことで提言を詰めていきたい。

3 閉会 (事務局)

- 次回の会議は10~11月とすることを伝えた。
- 次々回の会議は、懇話会の方から話を伺う予定であることを伝えた。

4 まとめ (柳委員長)

- 次回の会議も引き続き部会別協議をする。